



暮らしから考える

HOUSING 未来予想

●青森大学教授・エッセイスト・ジャーナリスト
見城美枝子

〈口と心をつなぐ糸〉

国民生活の質の向上に貢献した人々を称える「ヘルシー・ソサエティ賞」。賞金は出ないが、受賞者は授賞式に集った人々から拍手を受けテーブルを囲む。式の数日前、花屋の段差で転んだ際、若者客と店員から無言の視線を浴び、詫びや心配の言葉もなく、日本の若者には言葉がないのかと落ち込んでいた私は、行動が言葉で「称えられる」この顕彰会に勇気づけられた。青森大学の理事長は卒業生に祝辞で「忠」という文字を贈った。「忠」は「口」と「心」を一本の線で結んでいる。口の言葉と心がひとつになって、真心、誠意となる。



環境問題への取り組み、関心

「環境取り組みへの関心」に3分の2近くが肯定的回答。一方、「どちらともいえない」の中間的回答が前回調査に比べ増加。「環境問題への具体的取り組み状況」の肯定的回答は8割以上。関心の高い環境問題は「自然災害」、「地球温暖化」、「エネルギー・電力不足」、「ごみ問題」の順、関心の高い環境活動は「日常の節電」、「日常の節水」、「家庭ごみの削減」の順で、3項目とも9割が実践と回答。

住宅の環境アイテム関連

「環境に配慮した住宅への関心」は高い順に「節水機器」、「防災対応用品・備蓄」、「断熱サッシや複層ガラス等」で、それぞれの肯定的回答は5~6割程度だが、「自然素材利用」、「リサイクル資材」など下位項目の肯定的回答は4割以下。「環境に配慮した住宅についての知識」は、高い順に「オール電化住宅」、「防災対応用品・備蓄」、「太陽光発電システム」で、肯定的回答は7割前後である。

アンケート調査の概要

2009年に、分譲マンション居住者を中心とした一般消費者の環境問題への意識などの把握を目的にWEBアンケートを実施した。その後の東日本大震災や原発事故を経ての意識などの変化を把握するべく、前回と同様のWEBアンケートを2014年2月に実施。対象は東京23区、東京都下、千葉県、埼玉県、神奈川県、大阪府、名古屋市、仙台市の8地域で、625×8=5,000サンプルを収集した。

調査結果のまとめ

多くの設問で「肯定的回答」と「中間的回答」が増加。前回調査に比べ、興味関心、知識、具体的取り組みなどの設問で「肯定的回答」が増加し、「否定的回答」が減少。「日頃実践している環境活動テーマ」で節電、節水、家庭ごみの削減、「環境配慮行動の動機」で家計の節約など実生活に密着した項目の評価が高くなっている。環境問題テーマの新規項目では「防災」、「エネルギー・電力不足」に関心が高い。



防災に関する世論調査結果(内閣府)

防災に対する意識は高まるものの、耐震補強意欲は低調

東日本大震災後初の調査結果によると災害被害の具体的なイメージは「地震」が80.4%と最も高く、以下、「竜巻、突風、台風など風による災害」「河川の氾濫」「津波」の順。大地震への備えは「携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などの準備」が62.2%、次いで「食料や飲料水の準備」「家具・家電などの転倒・落下・移動防止」で2009年12月調査より全割合が上昇も耐震補強工事の実施意向には結びつかず。

変わる街探検隊

第100回

環境に配慮した親水文化創造都市を目指す「越谷レイクタウン」
越谷レイクタウン駅周辺地域(埼玉県越谷市)

近年、JR武蔵野線沿線での街づくりが活発化している。2008年に「越谷レイクタウン」駅が開業。2009年には新三郷駅前大型商業施設がオープンし、2012年3月開業の吉川美南駅でも大型複合開発が進行中だ。田園地帯であった「越谷レイクタウン」駅周辺は、河川に囲まれ洪水に悩まされてきた地域でもある。そのため国が治水対策目的の大規模調整池整備と新市街地整備が一体となった「レイクタウン整備事業」を創設。環境に配慮した「親水文化創造都市」の形成を目指し、水辺空間中心の街づくりが行われている。



「越谷レイクタウン」駅北口。大規模調整池と分譲マンション



「越谷レイクタウン」駅北口にある分譲マンション

寄稿 都市を考える「インフラ都市論」Vol.32

モンゴル軍を破った泥の土地

●特定非営利活動法人 日本水フォーラム 事務局長
竹村 公太郎

日本人は馬や牛を家族と考え去勢を施さず、車の動力として制御することに失敗。一方、モンゴル軍は大量の牛馬を完全制御。強力な騎馬軍団となり、ユーラシア大陸で侵略を繰り返した。そんなモンゴル軍が日本を侵略できなかったのはまず島であったこと。そして、日本のぬかるんだ「泥の土地」が牛車群と騎馬軍の活躍を阻んだ。牛と馬の動力を奪われ、船上に寝泊りせざるを得なかったモンゴル軍は嵐で全滅した。東海道の「宮」から「桑名」は海路で結ばれている。泥の濃尾平野を避け海へ逃げたのだ。この日本人でさえ扱いかねた泥の国土がモンゴル軍を苦しめ、海に追いやり、日本の危機を救った。

2014年2月
首都圏・近畿圏の
マンション
市場動向

首都圏	新規供給戸数	2,651戸	△24.1%
	初月販売率	80.6%	4.2%↑
	平均価格	5,064万円	9.2%↑
	分譲㎡単価 [3.3㎡単価]	708千円 [2,341千円]	7.3%↑

近畿圏	新規供給戸数	1,668戸	△21.2%
	初月販売率	77.4%	0.3%↑
	平均価格	3,383万円	△2.6%
	分譲㎡単価 [3.3㎡単価]	517千円 [1,709千円]	△1.7%